

平成二十三年度  
福岡女子大学入学式告辞

この荘厳な入学式の静寂な中にも、皆さんの若い力が自然と生み出すエネルギーを、私はひしひしと感じています。「リ―ダ―シップを持ち、国際的に活躍できる人材育成」を大学の理念とする新生福岡女子大学の一人員になられた二百六十四名の皆さんを、心より歓迎致します。ご入学おめでとうございます。また、ご多用にもかかわらず入学式にご臨席賜りました麻生渡福岡県知事、今林久福岡県議会議員を始め、ご来賓の方々には福岡女子大学を代表し、厚く御礼

申し上げます。  
本日、晴れの入学式に出席しておられるのも、入学試験という過酷な競争を突破された皆さん自身の努力によるのは間違いありませんが、今日まで物心両面から皆さんを暖かく支えていただいたご家族のご恩を忘れてはなりません。また、小学校から今日まで、勉強という面からだけでなく、心の成長も支えていただいた学校の先生、楽しいにつけ悲しいにつけ相談相手となってくれた友人達にも、感謝を忘れてはなりません。皆さんは若いのが故に何事も自分でできると思うのは良いことですが、皆さんの現在の晴れの姿は、周

りの多くの方々の経済面、精神面、あるいは教育面からの、計り知れない程の多くの支援によるものです。

福岡女子大学は、今年度より従来の教育組織を一新し、国際文理学部に国際教養学科、環境科学科、食・健康学科からなる一学部三学科の新生福岡女子大学に生まれかわりました。皆さんは、その記念すべき第1回入学生と言って良く、今後皆様の人生で最も思い出深い日となると信じています。国際文理学部の教育の理念や育成すべき学生像については、皆さんは様々な情報手段を通じて既に理解して

おられると思います。これから始まる、授業、授業時間外教育指導、体験・フィールドワーク授業、クラブ活動、社会・地域貢献・国際貢献教育指導を通じて、福岡女子大学の建学の精神と教育理念を、新入生の皆様に徹底して理解していただくよう指導をしていきます。

ここで皆さんが入学された福岡女子大学の歴史を説明しましょう。福岡女子大学は、1923年（大正十二年）に福岡県立女子専門学校として設立されました。今年で開学八十八年となる日本で最初の公立女子専門学校です。その後、1950年に福岡女子大学となり、学部・大

学院組織を充実させながら、2006年に「県立福岡女子大学」から「公立大学法人 福岡女子大学」と変遷してきました。先程説明しましたように、2011年4月より「リーダーシップを持ち、国際的に活躍できる人材育成」という教育理念に焦点を絞った大学として生まれ変わることになり、皆さんが新生福岡女子大学の最初の入学生であります。福岡女子大学の卒業生は八十八年前の開学以来、一人を越え、社会的に活躍している多くの人材を輩出してきました。皆さんには、その伝統ある福岡女子大学の一員となったことに誇りを持ち、勉学、社会・

地域貢献、国際貢献に励んで下さい。

皆さん、福岡女子大学に何を  
するために入学したのか、大学  
生活第1日目の今日、深く考え  
て下さい。大学は、自分自身の  
考えを個性として表現すること  
を学ぶ所です。教室で授業を受  
け、基礎知識を身に付けること  
だけが勉強ではありません。  
「学生である前に良き市民であ  
れ」 「社会性、国際性を身に付  
けよ」 「経験を多く積み、独創  
性・創造性を養うために身の周  
りの変化に興味を持って」 「人間  
としての尊厳を守るための倫理  
観を身に付けよ」 「留学生と仲

間になり、異文化を理解し、国際感覚を磨け」などは、私がいづも学生の方々に言っていることです。勉強しない学生、やる気のない学生は福岡女子大学に在学する資格はない」とも言っておきます。最近の学生の学力低下は著しく、もっと大学で実力を付けて欲しいと、経済界の多くの方々から私に要望される機会が多くあります。大学は、学生達の社会への出口ですから、学生の学力低下が大学教育に問題ありと直接結論されても仕方ありませんし、基礎学力向上のために、大学での教育法の改善を真剣に考える必要もあります。

これから始まる福岡女子大学での生活で、高等学校までの学生生活と大きく異なる点の1つに「国際性」があります。福岡女子大学には四九名の外国人留学生がいます。また、社会生活に於いても、リアルタイムで世界各地から様々な情報を得ることができるようになっています。真の国際性とは、外国語が喋れるということとは違います。異なった国や民族の風俗習慣、宗教、歴史、政治、経済などを理解し、これらに対して自分の意見を述べたり、その国の人たちと討論や議論ができることです。最近、東アジア地域では、国民経済が豊かになるにつれて、外



国の厳しい環境の下で勉強すること、若者が積極的に望まなくなりつつあるということ、聞いたことがあります。最近の日本人の若い人達は、旅行など短期間、外国に滞在し楽しむことは望むが、外国で苦しい勉強を何年も続けることを、必ずしも望まなくなりましたように私も感じています。東アジアの国々の経済的に豊かな生活が、若者達に苦勞して人生の夢を実現させるより、樂をして得られる目先の安易な道を選ばせているのかもしれない。政治、経済、スポーツ、芸能、あるいは日常生活までもが、国境を越え、ボーダーレスの状況になりつつあります。このよ

うな時こそ、外国語が喋れ、その国の人達の習慣、考え方、感情が理解でき、その国の人達と地球上で起こる様々な問題を討論し、最後には激論を通じて、本当に相手を理解できる能力を持つ社会人となる必要があります。

地球上には、様々な国あるいは地域に、多種多様な生活習慣、社会通念あるいは政治・経済体制、文化、宗教があることを知り、私達と異なった民族観や宗教観を持つ集団が存在していることを知ることが、「国際性」の基本です。自分自身の意見と異なる優れた考え方を持つ個人あるいは集団が居ることを知っ

て、初めて他人あるいは他民族を尊敬することができません。地球上に存在する民族、宗教、文化、政治・経済体制など、様々な面で自分達と異なるものがあることを理解し許容することができれば、20世紀に起こった多くの戦争や現在起こっている民族あるいは国家間の争いを、防ぐことができたかもしれませぬ。先程述べました様に幸いにも、福岡女子大学の学生になられた皆さんの回りには、世界中から集まってきた四九名の留学生がいます。外国からの留学生と積極的に交流し、意見を交換し、多くの国際的友人を作って、地球上には、単純に統一したり、

規格化したり、枠に嵌め込んだりできない価値観、人間観、宗教観のあることを理解して下さい。

若い時の海外留学や外国での滞在体験の素晴らしい点をもう一度述べさせていただきます。若い時代に多くの異文化と接触することの重要な点は、それ以後の人生において、より多様な選択肢を持てることです。身の周りで起こるあらゆる経験を、自分の過去の体験と比較することのできる人生においては、人生の岐路に立ったとき、私達は自分自身でより良い選択ができます。より良い判断と選択の積み重ねが、最終的に素晴らしく

輝かしい人生を送ることに繋がっている」と、私は信じています。

抵抗なく何事にも飛び込んでいき、失敗が許されるのは若い時しかありません。新人生の皆さんは若者の特権を持てる時間があったという間に過ぎ去ることを自覚して、一日一日有効に、福岡女子大学の学生生活が実り多く有意義となるよう心がけてください。大学から何かをしてもらおうと期待するのではなく、何を自分ですべきかを考える社会人になってください。「変革し、飛躍する福岡女子大学」の一員となったという誇りを持ち、何事にも自分の意見を持ち、積極的、建設的な行動のとれる社

会人として成長することを願って告辞と致します。

「国際的に活躍できる人材に」

平成二十三年四月五日

福岡女子大学長 梶山 千里